

- 市民・事業者・行政が一丸となり支援する定住促進の取組みは、特に子育て世代人口の定住に一定の成果
- 自然豊かな環境の下、京都縦貫道開通による都市部との利便性が増す当地はポテンシャルが向上、定住者の更なる増加を図り地域の振興へ

1. 綾部市の概要と人口動態

◆概要

- ・綾部市は京都府の中央部から北寄りに位置する**田園都市**
- ・美しい自然環境や**豊かな里山・田園と農村の暮らし**にものづくりを中心とした**産業の集積**を併せ持つ京阪神地域と日本海地域をつなぐ**交通の要衝地**（※**グンゼ**発祥の地としても知られる）



◆人口の減少

- ・昭和25年(市制施行) 54,055人
- ・平成27年2月1日現在推計人口 33,970人 (約60年で3割超の減)
- ・過去5年平均430人が減少(自然:▲280人、社会:▲150人)
⇒社会動態による人口減少を少しでも食い止められないか

2. U・Iターンを呼び込むための施策 (一部)

◆あやべ定住サポート総合窓口

平成20年度に企画部企画広報課に定住サポート総合窓口を設置し、空き家バンク、定住希望者相談活動を開始後、23年度に交流・定住・地域振興を一元的に担当する定住交流部を設置

- ・空き家登録制度(空き家バンク)
過疎高齢化により空き家が増加(調査:20年度379棟⇒26年度689棟(うち約83%が居住可能との結果))
ホームページ等によりイベント、空き家の情報発信や定住相談に加え、就職・就農相談
ただ、定住希望登録者:578人(26年10月1日現在)に対して**提供物件が20軒程と不足。その背景は、**

◆空き家の流動化を促進させるための施策

- ・空き家流動化報償金を給付(空き家提供者へ5万円の謝礼)23年度19件、24年度13件、25年度13件

◆定住者を誘導するための施策

- ・定住支援住宅の整備(市が空き家を10年間無償で借り受けて改修、**50歳未満で構成される世帯(定住希望者)**に3年間賃貸)
- ・U・Iターン者住宅取得等の融資あっせん(**20～55歳の定住希望者**)に空き家の購入
・改修経費を地元信金から借入(限度額)する際、綾部市が債務を保証)
23～24年度 各1件
- ・水源の里地域への定住者に給付(半年間月5万円を支給(**20～65歳の定住者**))
23年度5件、24年度3件、25年度4件



古民家暮らしが魅力!



(写真提供)綾部市

- ・宅建業者との連携(**綾部商工会議所**を通じて空き家の売買・賃貸契約時の法的手続きを市内宅建業者に委託) 23～25年度66件
- ・空き家見学ツアーの開催(厳しい冬期に実施し定住希望者に体験)
20年度61世帯119人が参加後、25年度末累計136世帯254人が参加
- ・空き家活用定住支援事業費の補助(**20～54歳の定住希望者**が空き家を購入・賃借して行う**改修工事(市内事業者発注)**に対して補助(対象経費の3分の2、100万円を上限。26年度から))

本気で移住を考えてくれる人に期待!



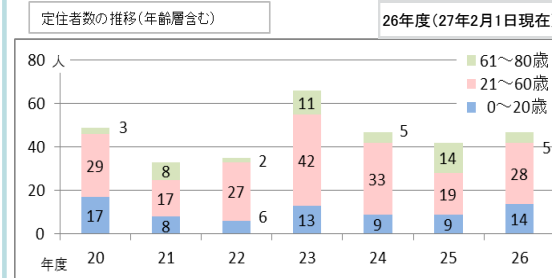
(写真提供)綾部市

◆定住促進条例の制定

- ・「綾部市住みたくなるまち定住促進条例」を制定
(26年4月1日施行)
市民・事業者・行政が役割を明確化した全市一丸となって取り組むための機運を醸成

3. 定住促進の取組み成果

◆あやべ定住サポート総合窓口による定住実績



平成20～25年度定住実績合計
117世帯 272人
全国第3位
(移住交流推進機構調べ)

【参考:第1位佐久市、第2位金沢市】

○定住者平均年齢:36歳(平成25年度末)

○定住者の前居住地は京阪神が7割超、その他北海道や東京都、岡山県等からの定住も

4. 今後の課題・期待

- ◆**空き家バンク登録数のアップ(市税担当が持つ空き家情報等の規制を緩和)**
- ◆**定住者の就労支援を推進**
- ◆**京都縦貫道開通(27年度)により京阪神等へのアクセスが向上。都市部との交流をより活発化させ、子育て環境の充実、ふるさと教育等を推進し定住増へ**